

研究分野	資源管理	機関・部	水産総合研究所・資源管理部
研究事業名	資源回復計画推進事業(ヒラメ釣獲試験)		
予算区分	受託研究(青森県)		
研究実施期間	H19～H21		
担当者	吉田 雅範		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

ヒラメは青森県沿岸の全域で漁獲され、本県太平洋海域では刺し網、定置網、釣り及び底曳網で漁獲される重要魚種である。しかし本県太平洋南部海域では、秋季に刺し網により小型魚が非常に多く混獲され、漁法の性格上、小型魚の再放流が難しいことから、資源管理上の問題となっている。このため資源管理方策の一つとして、へら曳き釣りによるヒラメの釣獲試験を実施し、釣り漁法への転換の可能性を探る。

〈試験研究方法〉

平成21年7月～9月の3ヶ月間、市川漁協に所属する漁業者7名でへら曳き釣りによるヒラメ釣獲試験を実施した。現場での記録項目は、操業場所、水深、操業時間、全長別漁獲尾数とした。

また、釣獲されたヒラメの全長から体重を下記の式により推定し、三沢市漁協の一本釣り活魚の銘柄別単価を乗じることで漁獲金額の推定を行った。

$$BW = 7.647 \times 10^{-3} \times TL^{3.05834} \quad BW: \text{体重 (g)}, TL: \text{全長 (cm)}$$

〈結果の概要・要約〉

- ・1時間当りの漁獲尾数は月平均で5.0～5.6尾であった。水深ごとに見ると6尾を越える時期があった(表1)。
- ・月別水深別の平均全長は27～37cmで、水深が深いほど平均全長が大きい傾向が見られた(表1)。
- ・平成19年から継続して試験を実施している漁業者A、B、Cの1日当たりの漁獲金額は個人差が大きく、月平均で約700円～27,000円であった(表2)。
- ・漁業者Aの1日当たりの漁獲金額は徐々に増加し、平成21年8月に27,000円で最高となった。ヒラメ釣り専業漁業者Cの1日当たりの漁獲金額は約19,000～29,000円(平成19年)であり、それに匹敵する金額であった(図1)。
- ・三沢市漁協のヒラメ一本釣り漁獲量は平成20年7トン、平成21年13トンと増加している。太平洋南部でヒラメ釣りが普及していることが推察された。
- ・釣りには再放流可能、初期投資が安い、活魚で出荷できる、刺し網よりも水揚げ単価が高い、漁場の移動が容易、大型クラゲやヒラツメガニの影響を受けない、網はずしの手間がかからない等のメリットがあるが、技術の個人差が大きい、漁期が夏場に限定される、燃料費がかかる等のデメリットがある。特に、刺し網は周年にわたって漁獲できるという背景があるため、大多数の漁業者が完全に刺し網から釣りに漁法転換するのは難しいと考えられる。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 ヒラメの釣獲試験結果

○漁獲尾数(尾)			
水深(m)	7月	8月	9月
10	643	95	
20	6	48	112
30	8	704	374
40		203	44
合計	657	1,050	530

○操業時間(分)			
水深(m)	7月	8月	9月
10	7,095	900	
20	510	1,260	1,590
30	300	6,780	3,555
40		2,370	1,080
合計	7,905	11,310	6,225

○1時間当たりの漁獲尾数(尾/時間)			
水深(m)	7月	8月	9月
10	5.4	6.3	
20	0.7	2.3	4.2
30	1.6	6.2	6.3
40		5.1	2.4
合計	5.0	5.6	5.1

○平均全長(cm)			
水深(m)	7月	8月	9月
10	31	27	
20	34	30	28
30	30	37	31
40		34	31

表2 平成21年漁業者別月別漁獲日数と1日当たりの平均漁獲金額

○漁獲日数(日)			
	A	B	C
7月	13	10	4
8月	16	8	7
9月	15	1	6

○1日当たりの平均漁獲金額(円)			
	A	B	C
7月	13,301	5,117	655
8月	27,392	12,890	2,725
9月	9,778	3,384	4,185

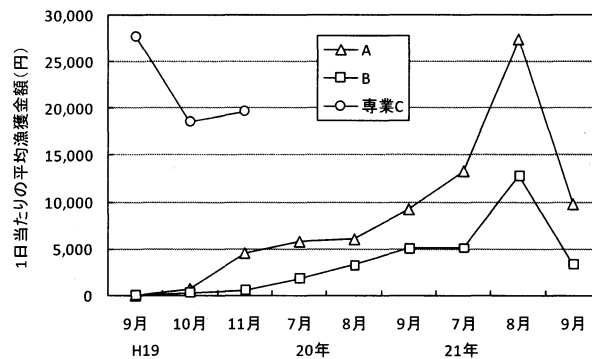


図1 1日当たりの平均漁獲金額の推移

〈今後の問題点〉

なし

〈次年度の具体的計画〉

なし

〈結果の発表・活用状況等〉

資源管理のための基礎データとする。